長洲町立長洲小学校　校長便り　№157

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和6年2月19日(月)

卒業式の思い出

小学校の時、卒業式のことは今でも覚えています。私が通った麻生田小学校は、標準服がありましたが、普段は私服もOKなので、標準服と私服が混在している不思議な状況でした。しかし、儀式的行事の時はみんな紺のブレザーを着ていたようです。卒業式などは特にそうでした。そのような中に、明らかに浮いてしまっている友達が数名いたことを鮮明に覚えています。蝶ネクタイをしてスラックスまで穿いています。私達は紺の半ズボンに紺のブレザーでしたので、そこだけ目立っていました。また、女の子の中にこんな子もいました。首回り、袖口、スカートの裾に至るまで、ピンクのフリルがついています。当時の女子の定番は男子と同じく、紺のブレザーに紺のスカートでしたからね。

小学生の発達段階には、それに「似合う」「相応しい」姿があります。派手に着飾らずとも、6年生らしい清々しく凛々しい姿があります。

私は中学時代、親から指図されるのがとても嫌でした。服装にしても然りです。学校のルールに従い、友だちと相談して自分で決定していました。さて、ご家庭では如何でしょうか?

卒業前雑感　言葉の真意を考える

最近、よく考えるようになったことがあります。それは、相手の発した言葉の裏にある本当の意味、真意についてです。この人は一体何を言いたいのか、それを冷静に考えることで、感謝の念を持つことができます。こんなことを書くのには、私自身の今までの経験が基になっています。人付き合いの中には「良かれ」と思っての言動がありますよね。私も、「良かれ」と思ってやったことが裏目に出ることが多々あります。そんな時心の中でぶつぶつ呟きます。「あなたのためにやってあげたのに! それも分からないの?」学校でもよくやってしまいます。子供達への何気ない一言、私は「良かれ」と思って指導助言をしていますので、子供達が納得していない顔を見たり、保護者の皆様から連絡を頂いたりすると、「またやってしまったか…。」と反省する毎日です。

中学校へ進学する子供達に伝えておきたいことに(自戒も含めて)「言葉の裏にあるものを考える大切さ」があります。先生方の指導の裏にある本質を考えてほしいのです。そうすることで、「先生方(友達)は私達のことを考えてこう言ってくれたんだ。」という気持ちになり、それに対する感謝の念も生まれてきます。これからの学生生活の中では特に必要ですね。中学校での生徒指導などは、「ダメなことはダメ」「是々非々」という視点で厳しく指導されますので、その度に悪態をついていたら、その人は損をすることになります。どのような場面で損をするのか、それは端的に言えば3年後に分かるということでしょうか。最近の学習塾ではそういった態度や身なり、躾まで行っているところもあるようです。なかなか難しいことですが、「言葉の真意」を考えながら人と接することができれば、先生方や友達との付き合いも円滑に行われ、楽しく、そして夢に近づくことのできる3年間になるはずです。

シリーズ「自分を語る」#157

「澤田教頭先生、退職願を書いてください。」

「でた~~~またか~!?」

人生で3度目の、そして得意の退職願です。どこに行く!?澤田!?

その後、校長先生は笑顔になって、こう仰いました。

「おめでとうございます。昇任されました。」

よくよく話を聞くと、まずは新任校長として採用されたこと。そして、驚いたのは交流で、熊本市立中島小学校への異動ということでした。

さあ、新しいことへのチャレンジです。不安もありましたが、ワクワクの方が勝っていたような気もします。少し悲しかったのは、多くの人に支えられて教頭職を終えた荒尾玉名を出るということです。私は荒尾玉名にいられたことでここまで来たといっても過言ではありません。そんな、慣れ親しんだ場所から出るのですから、それを考えると不安が勝りそうになることもありました。

令和2年の3月下旬です。そこに自分自身の異動が分かり、慌ただしく10日間ほどが過ぎることになります。書類の整理、赴任先へのあいさつ、各方面への挨拶…。コロナ禍の真っ只中での異動でしたから、お世話になった方々に直接会ってお礼を言うことが出来ずに、荒尾第一小学校を去ることになるのです。何か不思議な感じのする年度末でした。

休校に入っていましたので、卒業式は参集型で行われましたが、退任式に子供達は登校こそしていますが、放送による退任式でした。そうです。この頃はまだタブレット端末が整備されていなかったのです。熊本県は熊本市を除いて、ここから急激にタブレット端末の整備が進んでいきます。

3月の末、「一身上の都合による退職致したく願い出ます」こんな文章を書いて押印した退職願をもって、荒尾市教育委員会に出頭です。お世話になった方々に挨拶をして、気持ちを切り替えていきました。

4月1日からは熊本市の職員です。その前に、辞令交付。新任校長だけ熊本市教育委員会の一室で、教育長から直接辞令を頂きました。身の引き締まるというのはこういう時の事を言うのでしょう。コロナ禍ではありましたが、教育長の訓示から自分自身を奮い立たせたことを思い出します。その後、いよいよ新任地へと向かいます。

熊本市立中島小学校にはお昼頃の到着でした。熊本市西区にあります。校区内には熊本港があります。また、主幹産業は農業と漁業で、農業では特にトマトや蓮根の栽培、漁業では海苔の栽培が盛んでした。在任中に何度かトマトと海苔を頂いたことがありますが、産地直送でこれまでに食べたことがない美味しさでした。

中島小学校に到着し職員室にご挨拶に向かうと、先生方が笑顔で迎えてくださいました。ここで面食らったのは「校長先生」と呼ばれることです。前日までは教頭先生と呼ばれていて、翌日には校長先生と呼ばれるのですから、慣れるまでは少し時間がかかりました。しかも、熊本市勤務は平成元年度以来ですから、存じ上げている先生方が殆どいませんでした。少し寂しさを感じる4月でしたね。しかも、学校はコロナ禍の影響で休校が続いており、中島小学校の子供達との出会いは2か月後でした。　(つづく)

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。(「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　)